

# 第7回教育委員会協議会 次第

1 開催日時 平成30年2月13日(火) 18:00~20:00

2 場 所 高知共済会館 3階「桜」

3 内 容  
17:30~ 受 付

18:00~ 開 会

議 題

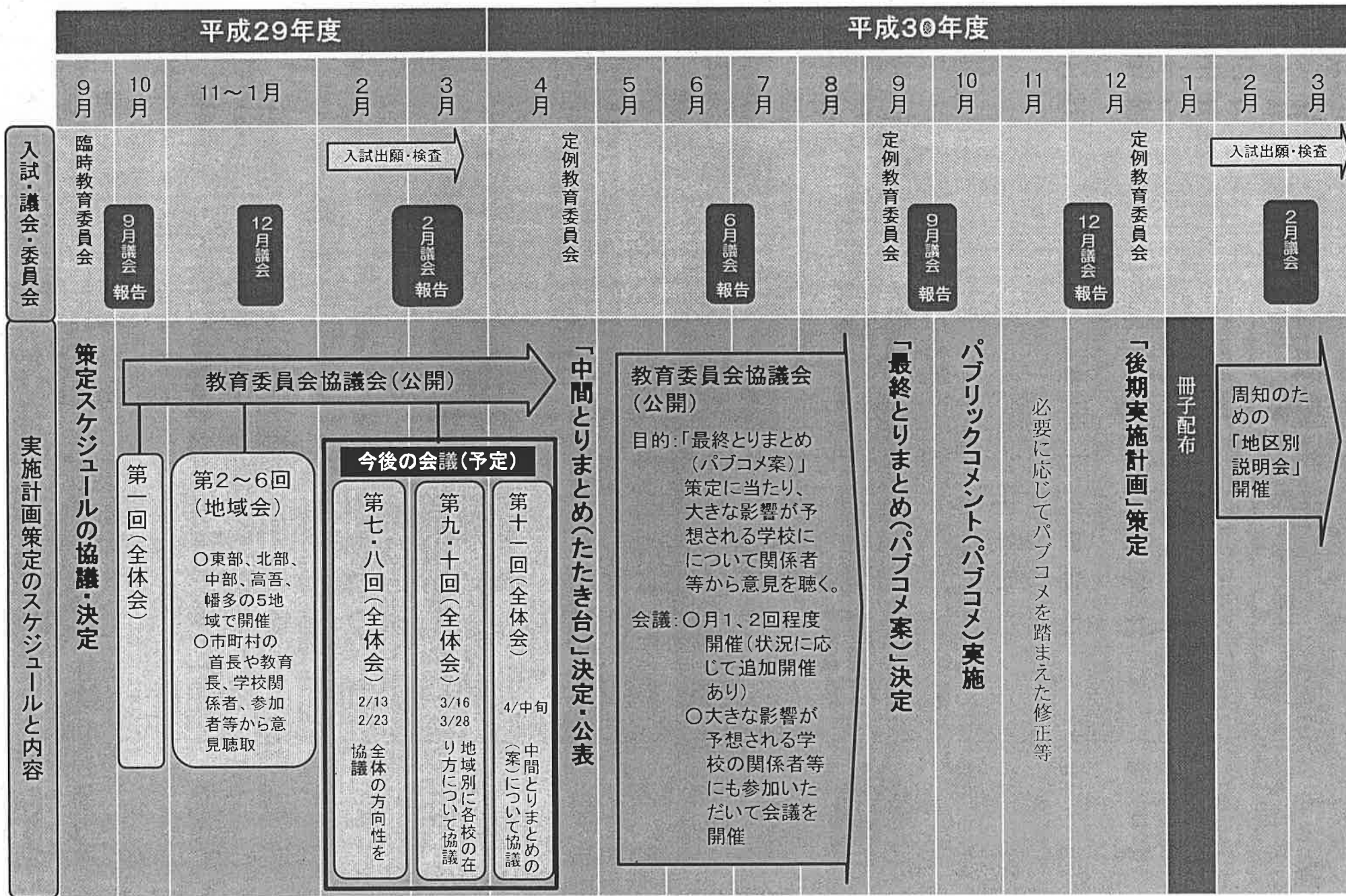
(1) 「中間とりまとめ(たたき台)」までのスケジュールについて

(2) 第2回~第6回教育委員会協議会で出された意見について

(3) 「後期実施計画」策定に関する全体の方向性について

閉 会

# 県立高等学校再編振興計画 後期実施計画(H31～H35年度)策定スケジュール



**教育委員会協議会(公開)**

**第一回(全体会)**

**第2～6回(地域会)**

- 東部、北部、中部、高吾、幡多の5地域で開催
- 市町村の首長や教育長、学校関係者、参加者等から意見聴取

**今後の会議(予定)**

**第七・八回(全体会)**

2/13  
2/23

協 議

全体の方向性を

**第九・十回(全体会)**

3/16  
3/28

地域別に各校の在り方について協議

**第十一回(全体会)**

4/中旬

中間とりまとめの(案)について協議

**教育委員会協議会(公開)**

目的:「最終とりまとめ(パブコメ案)」策定に当たり、大きな影響が予想される学校について関係者等から意見を聴く。

会議:○月1、2回程度開催(状況に応じて追加開催あり)

○大きな影響が予想される学校の関係者等にも参加いただいで会議を開催

周知のための「地区別説明会」開催

## 県立高等学校再編振興計画「後期実施計画(H31～35 年度)」 策定に関する教育委員会協議会の地域会 概要

### 1 教育委員会協議会の開催

本県では、平成 26 年度から 35 年度までの 10 年間を見通した「県立高等学校再編振興計画」を策定し、現在、「前期実施計画(H26～30 年度)」を実行しているところです。

そこで、今回、平成 31 年度から 35 年度までの「後期実施計画」を策定するにあたり、県立中学校・高等学校の再編と振興について、県民の皆様のご意見も聴きながら策定していくこととし、県内5地域で「地域会」を開催いたしました。

### 2 日程及び場所

開催日	地域名	会場	開催時間	参加者
11月21日(火)	東部地域	安芸市民会館	18:00～20:07	
11月30日(木)	中部地域①	南国市保健福祉センター	18:00～20:00	
12月4日(月)	中部地域② 北部地域	高知共済会館	18:00～20:15	
1月15日(月)	高吾地域	四万十町農村環境改善センター	18:00～20:17	
1月24日(水)	幡多地域	四万十市立中央公民館	18:00～20:30	

### 3 地域会での主な意見

#### 【東部地域】

発言者	意見の概要
1 室戸市 教育長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○室戸市も児童生徒数が激減している。小中学校の統廃合については、子どもにとってどうなのかという判断基準で協議していこうと話をしている。</li> <li>○室戸高校への支援としては、生徒の寮へのエアコン29台の設置や、女子野球部などのために運動公園のハード面の整備・充実、ジオパーク学に係る専門員の派遣など、できる限りの支援をしている。</li> <li>○室戸高校との交流としては、教員間の交流と生徒間の交流がある。小中学校の研究主任会に室戸高校の先生も参加したり、室戸高校の授業参観に小中学校の教員が参加している。また、児童会・生徒会交流へ高校生が参加して、小中学生をリードしたり、室戸高校の総合学科の研究発表会に、全中学生を参加させるとか、夏休みの補習には、室戸高校生に協力していただくなどの交流をしている。</li> <li>○室戸高校の全日制、定時制も含めて、ぜひ存続していただきたい。室戸高校がなくなると人口減少に拍車がかかるのではないかと、すごく心配・不安である。</li> <li>○室戸高校の必要性は、東部の端にあり、子どもたちの選択肢が一つしかないという地理的側面が一番大きい。2つ目は、経済的な側面であり、厳しい環境にある子どもたちも多く、バス代・下宿代も厳しい。3つ目は、室戸市の小中学校のキャリア教育の目標・テーマは、「ふるさとを愛する心を持った児童生徒の育成」であり、その先導役として、高校生の存在は絶対に必要である。</li> <li>○室戸高校の女子野球部対しては、市も精一杯支援をしていきたい。女子野球部の一期生が、高知銀行の室戸支店に就職して、室戸で生活、活躍している。今後もこんな人物が育つことを期待している。市としても、精一杯の応援をしたいので、室戸高校の存続をよろしく願います。</li> <li>○ジオパークは、人と人とのつながりも含めたものであり、人の温かさが基盤になる。</li> <li>○現時点では、総合学科か普通科かということより、総合学科のメリットを改めてアピールする必要がある。生徒数と教職員数というの、切り離せない問題だと思う。そこは理解しているので、激減の数を見た時に、いずれ判断しなくてはいけないと思っている。判断材料は子どもにとってどうなのかということ。現時点で、改めて総合学科の良さを、双方向理解していく時期と思う。</li> <li>○定時制についても、ぜひ存続してほしい。地理的側面、経済的側面、特に夜間の通学になれば交通事故も心配である。近くに学校があってほしい。定時制の先生の対応は丁寧で、子どもたちが成長している姿が見える。地理的側面が一番であるが、少人数で丁寧に指導してくれる姿を続けてほしい。</li> <li>○野球部は、女子野球部も男子野球部も、という想いがあるが、室戸高校は男子が単独でチームが組めないのが実態。</li> <li>○教員対象のアンケートを見ると、学力の高い子は高知市内志望が強いという気がする。</li> </ul>

2	会場の傍聴者	○室戸高校の卒業生であるが、先生が「保育士か栄養士はどうですか」と勧めてくれ、今も保育士をしている。
3	会場の傍聴者	○生徒たちの小中学校での、いじめだけではないが、いろんな状況から、定時制の役割が大きくなっていると感じている。室戸高校の定時制の生徒が全国大会へ行くような時には、振興会の会員総動員でバックアップをしている。そのような状況も踏まえ、定時制をぜひ残していただきたい。
4	田野町教育長	<p>○中芸高校の存続をお願いしたい。中芸地区のみならず、高知県の東部の各地域から、中芸高校に進学して、高卒資格を取得したいという方も多く、やはり、なくてはならない学校と思っている。</p> <p>○夜間部も、人数的には増えてくる傾向にあると思う。聴講生が多いことを見ても、学びたい時に学べる環境は、大事である。</p> <p>○中芸高校の生徒には、イベントにも参加していただき、「中芸学」という講座に生徒が毎年取り組んでいる。高校生が中芸の魅力をプレゼンして、地域の人も中芸の良さを感じることができるといふイベントである。地域の方々も中芸高校を身近に感じ、気が付かなかった自分の町の良さを感じることができる。これは素晴らしい取組だと思う。</p> <p>○中芸高校は統廃合ではなく、今の形で存続していただきたい。20人という枠はクリアすべく、地教委も努力が必要である。基礎学力の定着は当然、地教委の業務であり、こういう生徒に育てたのでお願いしますという形で、中芸高校に渡す取組が、必要と考えている。</p> <p>○主産業が第1次産業であり、地域での就労になると、役場、農協という形が主になる。ただ、東部の中核である田野病院もあり、看護師の奨学金なども活用して、就労に向けて取り組むこともできる。</p> <p>○田野町でいうと、ごめん・なはり線が開通して、エリア外の学校に通う生徒が増えている。最近では、安芸市や南国市、高知市内の学校。通学している生徒で一番遠いのは、高知西高校である。JRで高知商業前駅まで行き、自転車で通学している。昔は、中芸校区から安芸へ行きたいという生徒が多かったが、今は岡豊高校へ行きたいという生徒が少くない。</p> <p>○岡豊高校に通いプラスバンドや、卓球をしている生徒がいる。地元の高校に通わないのは、少し前は単位制に馴染みがなかった部分があると思う。教育次長時代に、単位制であっても、定時制の昼間部であっても、国公立大学にも入学している、卒業して就労につながる学校に行き資格を取得できるといったことをアピールしたらどうかという話をした。東部の義務教育の校長会があった時に、中芸高校長に学校の紹介をしてもらった。地教委と中芸高校で連携して、学校のPRをするのも一つの方法と思う。毎月2万5千円近い定期代を払って、南国市とか高知市まで通学する必要はなく、地元でもできることをPRすればよい。</p> <p>○田野町も一時、過半数が県立安芸中に行きたい時代があり、実際に6年生の3割以上が、県立安芸中に流れていた状況もある。保護者間で話をした時に学力保障が県立中の方があって保護者が多かった。サッカー部など、部活動で行きたいという生徒もいた。最近では半分以上が県立中を希望することは少なくなっている。田野町の子どもは少ないが、一時みたいに、県中へ何人流れるのかと心配する状況はない。</p> <p>○地教委も、「ここまで子どもを育てたので、あとお願いします」と言えるだけの、基礎学力を定着させなくてはならない。高卒のパスポートを中芸高校で取れるように、地教委も力を付けていき、進学させなくてはならない。東部で高校に入れなかった生徒は通信制の高校に入っている。中芸高校としても、あなたの未来についてサポートできるということを、生徒・保護者も含めてPRしていただく。地教委としても、中芸高校と話して、進めていきたい。親としても、子どもが自立していくことを望んでいる。</p>
5	安芸市教育長	<p>○地域の良さに気付き、様々な体験を通して、志の高い児童生徒を育てるには、ふるさと学習が必要である。安芸市は童謡の里、書道の里、それから三菱源流の地、阪神タイガースのキャンプ地でもある。次代を担う子どもの心に、ふるさとを育むことを大事にしていく。</p> <p>○安芸市の高校への進学の実績は、過去3年を見ると室戸高校への進学はない。次に、28、27、26年度の3年間の中芸高校、安芸高校、安芸桜ヶ丘高校のデータでは、50%弱の生徒たちは、この3校にお世話になっている。生徒の進路に対する考え方は、地元で進学校へ行きたいという生徒、工業高校、商業高校へも行きたいという生徒もいる。安芸市は、不登校・不登校気味の生徒もいる、そういう生徒たちも、高校へは行きたい。特別な配慮、支援を要する生徒、中途退学して学び直しをしたいという生徒、家庭の事情・状況が厳しい環境にある生徒など、どの子も高校に進学したい、高校を卒業したい。こういう生徒の想いは、叶えていただきたい。</p> <p>○育ててほしい生徒像は「地域のリーダーとなる生徒の育成」です。高校は、現行の教育課程の中で、例えば地域学習については、小学校、中学校は重ねてきているので、それへ輪をかけて、新たな視点で高校生として地域学習をするカリキュラムはできないか。</p>



安芸市 教育長	<p>安芸市の子どもが、安芸市・他の市町村・県でもいいが地域学習をしていただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○安芸高校と桜ヶ丘高校については、普通科、工業科、商業科それぞれあり、地元で置くことは、必要である。両校の安芸市への貢献度は、非常に高い。安芸高校は、普通科の特徴を生かしたボランティア活動。そして、安芸桜ヶ丘高校は工業科、土木・建築、商業科の特徴を生かした活動をしている。</li> <li>○その他、安芸高校の津波被害については、地域の方もそんなことをおっしゃっていたので、どこかではっきりと申し上げた方がいいとは思っている。</li> <li>○中芸高校の昼・夜間部について、安芸市からは多様で様々な事情のある生徒を受け入れていただいている。</li> <li>○結論として、この4校は安芸地区へは置いていただきたい。1学年1学級20人以上という最低規模は、地域の状況が違うので、そういうところも地元と話をし、勘案していただきたい。</li> <li>○県立中には県立中の目的があるので、県立中は県立中で頑張ってもらいたい。29年度の県立中の入学者数を聞くと、安芸市から過半数行っている。大変多い。曲がり角にきている。</li> <li>○（安芸高校と安芸桜ヶ丘高校との統合について）個人的に市民から聞く声としては、「活性化のためには、（安芸桜ヶ丘高校が）元に戻るのもやむなし」とか、「2校のままで頑張ってもらいたい」といった意見を聞く。なお、地域としては、普通科、そして工業科、商業科は残してもらいたいと思っている。</li> <li>○（南海トラフ地震が起きた場合の安芸高校、安芸桜ヶ丘高校の現在の位置）安芸高校長からお話を聞いたが、耐震補強をされて、津波にも耐えれると。それで、上の階へ調理室を構えていると。しかし、校舎からは海がすぐそこに見えるので、津波がザーッと、3.11のような感じで来たら、やはり恐怖心を抱くと思う。安芸桜ヶ丘高校も、データでは5mとなっていたが、山手の上へすぐに行けるし、球場の方へも上がれるので、安芸桜ヶ丘高校の方は大丈夫と思う。しかし、安芸桜ヶ丘高校は校舎が階段状になっていると思う。</li> <li>○（県立安芸中学校について）お互いの学校が競い合うことができ、ありがたいと思っている。県立中学校は目標になる。</li> <li>○（地元からの進学者を増やす方法）地域からと、高校からの2つの方法がある。高校からはアピールにきてほしい。子どもが行きたいと思うようなアピールをしなければいけない。昔は郡部から高知への入学枠があったが廃止になった。余計に高知市内へ行きやすくなる。だからこそ地元へ引き止めるために何をやるのかということも高等学校側も考えなければいけない。</li> </ul> <p>できるだけ高校と密接にやっていく。知恵を出さないといけない。安芸市立の校長先生方と相談していただいても構わない。地元は盛り立てていきたい。</p>
------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5

## 【中部地域①】

発言者	意見の概要
香南市 教育委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>○城山高校は、設立には、地域の方々の強い要望があっただけのものであり、地域の支援や協力には、非常に大きなものがある。</li> <li>○香南市には、介護関係の施設が多く、卒業生も多く働き、高等学校の教育課程で普通科に福祉教育を取り入れている。卒業生は、施設、保育所、市役所等に多く働いている。</li> <li>○城山高校は、一時期、1学年1学級という状況に追い込まれたが、現在、地域の方々の支援や県教育委員会の理解をいただき、1学年2学級に復帰した。本年度は大学進学が4名、4年制大学3名、うち公立の4年制大学には1名合格している。就職面は、現在100%の就職率を達成しており、本年度は技研製作所にも就職が決定をしている。学校としては、学習面ばかりでなく、福祉教育にも重点を置き、周りの方々との連携も深めてきている。</li> <li>○県立高等学校で福祉教育を取り入れているのは、室戸高校と城山高校の2校である。福祉情勢は、現在、施設型の介護から、在宅介護への転換が言われている。介護福祉は、高齢社会としての活動であり、若い高校生、青年が取り組む活動としては、苦勞もあると思う。学校教育活動の中では、その他に夢や希望のある学校の活動も期待をしていきたい。今後とも、城山高校の福祉教育と学校教育にご理解をいただきたい。</li> <li>○先生方の努力により、次第に成果も上がっているが、残念ながら、生徒数が急激には増えていない。現在、子どもたちの部活動や、いろんな活動が、人数により制限をされる場所がある。子どもたちが自分たちの想いを持って十分に活動できるようにさせてやりたい。</li> <li>○部活動とか趣味も一緒に活動ができることも大事だと考えている。福祉だけでなく、在学生の中には、いろんな方向を目指したい子どもも入ってくるので、そういったことにも取り組み、進学方向でもいろんな方向があるので、将来の夢が描けるような活動はさせてやりたい。</li> <li>○赤岡町には絵金歌舞伎の伝統があるので、その活動を高校生に体験させたい。</li> </ul>

1

1	香南市 教育委員	<p>○現状では、サッカー部、バスケットボール部、写真部などがある。少人数のものは成り立つが、多くの人数を要するものは成り立ちにくい。学校の活動として、絵金歌舞伎以外にも、芸能活動といった声もあるが、学校の現状と生徒の希望がかみ合っていないのか、まだ把握していない。</p>
2	香美市長	<p>○香美市では、コミュニティ・スクールや地域協働本部の設置、探究型学習（自ら学び自ら考える力の育成を図る学習）による学力向上への取組、高知工科大学との連携など、市民、行政が一体となって、学校教育の向上や、生涯学び続けるまちづくりを進めている。</p> <p>○市内小中学校では、探究型教育をはじめとする様々な取組を通じて、学力が向上しており、各校ではさらに高いレベルの教育を目指し、意欲的に取り組んでいる。本市の、人づくりによるまちづくりを推進するに当たり、現在、山田高校が、生徒の人間力を高める探究型学習を力強く進めていること、学力向上に力を注いでいることは、貴重で、本市発展の希望である。</p> <p>○地域の方たちが、山田高校に元気をもらっている状況がある。学力向上に力を注ぎ、国公立大学等への進学率が向上してきたことにも喜んでいる。</p> <p>○高知工科大学は、探究的な学びによる研究・学習を進めている最高の教育機関である。現在、高知工科大学との連携は次第に進み、小・中・高等学校との総合連携を行っているが、身近にある「知」の拠点であり、まちづくりを担う人材育成には、大いに力を借りたい。</p> <p>○市内の児童生徒は、中学校、高等学校への進学の際、香美市を離れる傾向が強くと、山田高校が様々な取組を充実させているにもかかわらず、地域からの進学が低いことである。山田高校の魅力ある取組と、地域からの進学があつてこそ、保育・幼稚から大学までの一貫した教育が実を結ぶ。子どもたち、保護者、地域の人たちにとって、山田高校が明らかに変化、充実したことが分かる施策が必要である。</p> <p>○平成31年度からの県立高等学校再編振興計画「後期実施計画」に対して、高等学校教育振興の観点で、山田高校を探究型、高知工科大学との連携型の高校にすることを提案する。一つは、探究型教育の特色が明確に伝わる科やコースの新設、教育課程編成の工夫を提案する。二つ目には、高知工科大学との連携の特色が伝わるような、指定事業等を行っていただき、特色を明確に示すことができる学校づくりを提案する。高知工科大学との連携を強め、高知工科大学の特色を活かした探究型学習を生むことができる。特色のある教育を進める東部地域の拠点校として、新しい教育を発信し、県の高校全体のレベルアップにつながる。山田高校が光ることで中学生への強い刺激となり、学力向上が期待できる。</p> <p>このことは、教育の高知市一極集中の緩和や、高校生の県内大学への進学率向上にもつながる。</p> <p>○山田高校の改革は、全ての要（かなめ）である。山田高校の探究型、高知工科大学との連携型への学校改革について、ご理解、ご協力をお願いする。</p> <p>○行政として、できることは精一杯、やっていく。高校生の通学についても、来年の4月から、かなり思い切った応援をさせていただく。やはり、山田高校から大学へつなげていきたい。毎年、国公立大学への進学数が増えているが、そのテンポではなく、どんと、高知工科大学へ40人、50人行くような高校にしなきゃいけない。そこまで実現したい。</p> <p>○（高知工科大学との連携を強化するイメージ）子どもたちが山田高校に進学したいと思えるよう、進めてきた探究型の延長が、山田高校にあることが大事と思う。自らが切り拓く教育を、小学校、中学校と続けているので、受け皿が山田高校にあることが大事である。40人、50人の生徒たちが、地元の高知工科大学に行く道になるような高校にならなければいけない。高知工科大学が山田高校を附属にしたいと思うような高校に発展しなければいけないと思っている。そのために、どんなことができるか。よってたかって知恵を絞っていきたい。</p>
3	南国市 教育長	<p>○南国市は3つの高校、高知農業高校、高知東工業高校、岡豊高校があり、それぞれ、農業、工業、普通で、南国市の子どもたちは恵まれている。</p> <p>○南国市の教育行政においても、市長との総合教育会議のなかで、輝く明日への人づくりということで、教育は人づくりであるという視点に立ち、学力向上と人権教育を基盤とした生徒指導ということで、自尊感情を育み、豊かな心をつくっていくことに取り組んでいる。</p> <p>○3つの高校については、各小学校・中学校の教育実践に支援協力をいただいている。高知農業高校には、現在6学科であるが、2年生から全学科でAコースは専門コース（後継者、就職等の養成）、Bコースは進学コースということで、丁寧な取組をしている。農業の近代化と農業の担い手、後継者の育成、自営業等に関する取組で、生活総合科、食品ビジネス科等では、農業関連産業に従事しようという子どもたちが頑張っている。</p> <p>○要望としては、植物バイオ、動物バイオなど、農業の技術は、進歩しており、学力、勉強する必要はあるが、大きな農家の子どもに学力を付けられなかったことは、大きな反省</p>

3	南国市 教育長	<p>である。農業の後継者、担い手には配慮をしてほしい。「後を継いでやりたい」という子どもたちに対して、もう少し門戸を広げてほしい。農業の担い手、後継者がきちんと進学できるように我々もは取り組んでいきたい。</p> <p>○高知東工業高校にも本当に感謝している。全日制が4学科で、南国市内の工業生産関連会社へ、多くの子どもが就職している。垣内、栄光工業など優秀な企業に卒業生が入っている。進学コースの理工学科が3年前に廃止されたが、現在の4学科からも進学しており、高知高専を受験する子どもが増加した。理工学科がなくなったため、子どもたちが高専を受けるようになった。小学校、中学校には、出前授業で学校現場に入っている。</p> <p>○定時制の卒業式に出席するが、働きながら、苦しい3年間（中には4年間）を本当にやり抜いてきた生徒さんの、あの想いを受け止めて保護者も私も涙を流している。厳しい状況のなかで働きながら学ぶ、定時制の存在について、お力添えをいただきたい。</p> <p>○普通科の岡豊高校には、普通科に体育コース、芸術コースがあり、3年間、専門的なコースで学ぶことができる。芸術コースは、音楽コース・美術コース・書道コースと、それぞれの専門を生かし、それぞれ専門コースへの進学もできる。それ以外の普通科では、2・3年生では、理系・文系、文系は国公立の文系Ⅰと私立の文系Ⅱに分かれ、きめ細かく指導していただいております。商業を目指して就職、短大等に希望する子どもは、ビジネス系のコースを選ぶことができる。家政系の大学・短大、専門学校へ行きたい生徒は、生活文化系を選ぶことができる。普通科ではあるが、子どもたちの希望に沿った総合的なコースを保障できるようになっている。</p> <p>○運動部・文化部ともに、全国に誇れる素晴らしい活動をしてきており、吹奏楽部が小学校・中学校の文化祭とか記念行事に演奏に来てくれる。芸術コースの美術・書道も対応してくれる。小中学校でしっかり学力を付け、それぞれ希望する学科へ進学してもらいたい。</p> <p>○（高知農業・高知東工業の高知市内校との棲み分け）高知東工業高校が高知工業に再編されるとなると、子どもたちが、高知工業高校へ行くしかない状況になる。高知東工業高校には特色ある科の運営をされているので、高知工業高校の科と比べて、選択しているので、高知東工業高校の価値は大きい。高知農業高校は、農業後継者育成で、絶対なくしてはならないという思いである。高知県内で一番肥沃な香長平野で農業後継者を育てていくため、縮小したり、科を少なくしたりすることのないように現在のままで、設置しておいてほしい。</p> <p>○科の存続やその在り方は、その時代に即した必要なものを設置していかなければならない。先見の明をもって、高等学校との連携をやっていきたい。</p>
4	会場の 傍聴者	<p>○岡豊高校は、マンモス校で、部活動が盛んであるのは魅力的。</p>

【中部地域②・北部地域】

	発言者	意見の概要
1	本山町 教育長	<p>○嶺北高校がより魅力的な学校となるように、本山町、土佐町、嶺北地域が一丸となって、地域とともにある学校づくりに取り組む。高校は次第に活力を失ってきた。地域が高校を失った場合、生徒だけでなく、その保護者や家族が地域外へ流出して、地域の存続が危機的な状況になる。</p> <p>○嶺北高校を、生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域が活かしたいと思える学校に育てていく確固たる思いを持った。嶺北出身の生徒の進学率の向上と、嶺北外の生徒の日本全国からの入学を成し遂げる、魅力の開発、開拓を試みている。</p> <p>○その一つが、嶺北カヌープロジェクトに伴う、嶺北高校カヌー部の強化である。嶺北の豊かな水資源を活用し、日本一のカヌー練習環境及び指導体制を整えることに着手している。日本カヌー連盟を通じて紹介いただいた、ラヨシュ・ジョコシュ氏を、嶺北高校カヌー部の外部指導者として招へいした。元世界チャンピオンが外部指導者として、高校に指導に当たることは前例がなく、非常に魅力的な要素となっている。指導をさらに効果的にするために、カヌーの現役選手であり、カヌーインストラクターでもある佐田野氏も招へいし、ラヨシュ氏のアシスタントとして、高校カヌー部の指導サポートに入ってもらっている。</p> <p>○嶺北高校でも、カヌーを切り口として県外生徒の受け入れを開始し、嶺北高校「魅力化プロジェクト」を推進していきたい。隠岐島前高校の島親制度に習い、県外生徒を受け入れてくれる、地元住民の開拓を開始している。</p> <p>○第一に、カヌーの楽しみを通して地域の魅力を知る。第二に、カヌーを通して切磋琢磨する中で、生徒各自が自己実現をしていく。それを可能にする体制が着々と整っている。生徒が行きたい、保護者が行かせたい、地域が活かしたい学校への、第一ステップがカヌーを通じた活性化である。</p> <p>○嶺北カヌープロジェクトの目指すところは、3つある。一つは、嶺北を日本有数のカヌー競技強化拠点地域とすること。続いて、嶺北高校を日本唯一のカヌー指導校とするこ</p>













































